

基本施策 C 5 農林業に新しい活力を生み出します

主管課：農林振興課

個別施策

- C5-1 地域ブランドの育成を推進します
- C5-2 意欲ある農林業者の育成確保を図ります
- C5-3 安心して農林業を営む環境づくりを進めます

ア 施策の目的

農林業者が、安全・安心で新鮮な農林産物を安定的に供給し、経営が安定している。

イ 基本施策の評価

D c 目標を達成しておらず、目的達成に向けた課題の克服などがやや遅れている

ウ 成果指標（「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標）

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R1	R2	
1戸当たりの農産物 販売額	3,817 千円 (26 年度)	↑	目標値	4,361	4,418	4,475	4,533	4,591
		↓	実績値	4,041	4,273	4,171		
		↓	達成率	92.7%	96.7%	93.2%		

※ 指標の目標値は平成 28 年度に策定した長崎市農業振興計画[後期計画]に合わせて修正した。平成 28 年度の目標値は、直近値である、平成 27 年度の「1戸当たりの農産物販売額 4,305 千円 (5,576 百万円/1,295 戸 2015 農林業センサス)」に、平成 25～27 年度の農産物販売額の平均増加率 1.3%を乗じて得た額を目標値とした。以降は前年値に 1.3%を乗じて算出。

エ 評価結果の妥当性

本部会での議論を踏まえて考えると、評価結果については妥当であると判断する。

オ 審議会における政策評価に関する意見

なし

カ 審議会における施策推進に向けた提案

- 狂牛病や豚コレラなどで全国的に畜産農家は減少している。畜産農家は、素牛を鹿児島など市外から購入しており、素牛の取り合いとなり素牛価格は上がっている。畜産は設備、牛舎の維持など投資額が大きく、病気で殺処分になると倒産の危険性もあるため、リスクが大きいことを理解したうえで、繁殖もできる体制を今後進める必要があるのではないか。
- 農業者の減少はここ 3 年ほど急速に加速しており、市が考える以上に減少していると思う。要因として、鳥獣害対策や夏の高温などがあり、おそらく、夏の暑さと作業環境の変化はますます拍車をかけ、特に 60 歳以上の農業者は予想より多く営農をやめ

ていくのではないかと思うので、抜本的な改革と、更なる危機感を持って対策・戦略を打ち立てる必要があるのではないか。

- 現在、長崎県の11箇所で国の基盤整備事業を行っているが長崎市は実施していない。市内の畑は一つ一つの面積が小さいので、国の基盤整備事業を活用し、農地を確保して基盤整備し、農業に意欲のある人を誘致していかなければ、今後、担い手も増えないのではないか。他市町からの遅れを挽回できるようスピード感を持って、生産者の確保・再生産できる生産現場の開拓を推し進める必要がある。
- 「なつたより」が長崎びわであることを知らなかった。名前を聞いて何かイメージできるかというところがブランディングで非常に大事だと思うので、名称を「長崎びわ・なつたより」などにしたほうが、市外、県外の人にもわかりやすい。長崎というのはそれだけでブランド力はあるので、どんどん活用したほうがいいのではないか。
- C5は「農林業に新しい活力を生み出す」という非常に大きなテーマだが、対象が「なつたより」と「出島ばらいろ」だけになっていることについて、それでいいのかと感じる。あまりたくさん出過ぎてもおかしいと思うが、的を絞った取組みをお願いしたい。
- 長崎の農業について、どのような作物を作り、どのようにして特徴を出すかという視点も必要ではないか。
- 新規就農者の誘致は県内各市町も行っており、家賃負担など優遇している市もある。長崎市は面積もなければブランドもないなど新規就農者にとって魅力はいまひとつ見受けられない。ブランディングにしてもそうであるし、もう少し抜本的に見直すべきである。

キ 次期総合計画の策定に向けた意見

- 成果指標の「なつたより」の販売量について、寒害等の影響で生産量が減少し目標達成できなかったとあるが、毎年そういう説明がある。天候の影響を受けやすい指標を目標値に持つてくることの妥当性も今後は考える必要がある。
- C5の経営の安定をめざすことにおいて、新規就農者数という指標に少し違和感がある。新規就農者よりやめる人が圧倒的に多い中で、やめる人を減らすこと。長崎は農地面積で他地域を越えることはできないので、同じものをつくと生産性は低くなる。どうブランド化するか、「出島ばらいろ」や「なつたより」のようなもの、ほかにも消費と組み合わせた高価格で売れる取組みを何かこの中に入れるべきであったのではないか。ブランド化して高く売れるような対策を工夫した指標が何か出てきてほしいと思う。
- 新規就農者にこだわるのではなく、既存の農家も減らさない努力や、これからは機械もロボット化し、トラクターも無人で走るような時代になるなどスマート農業になるので、そういうところも早目に行ったほうがいいのではないか。